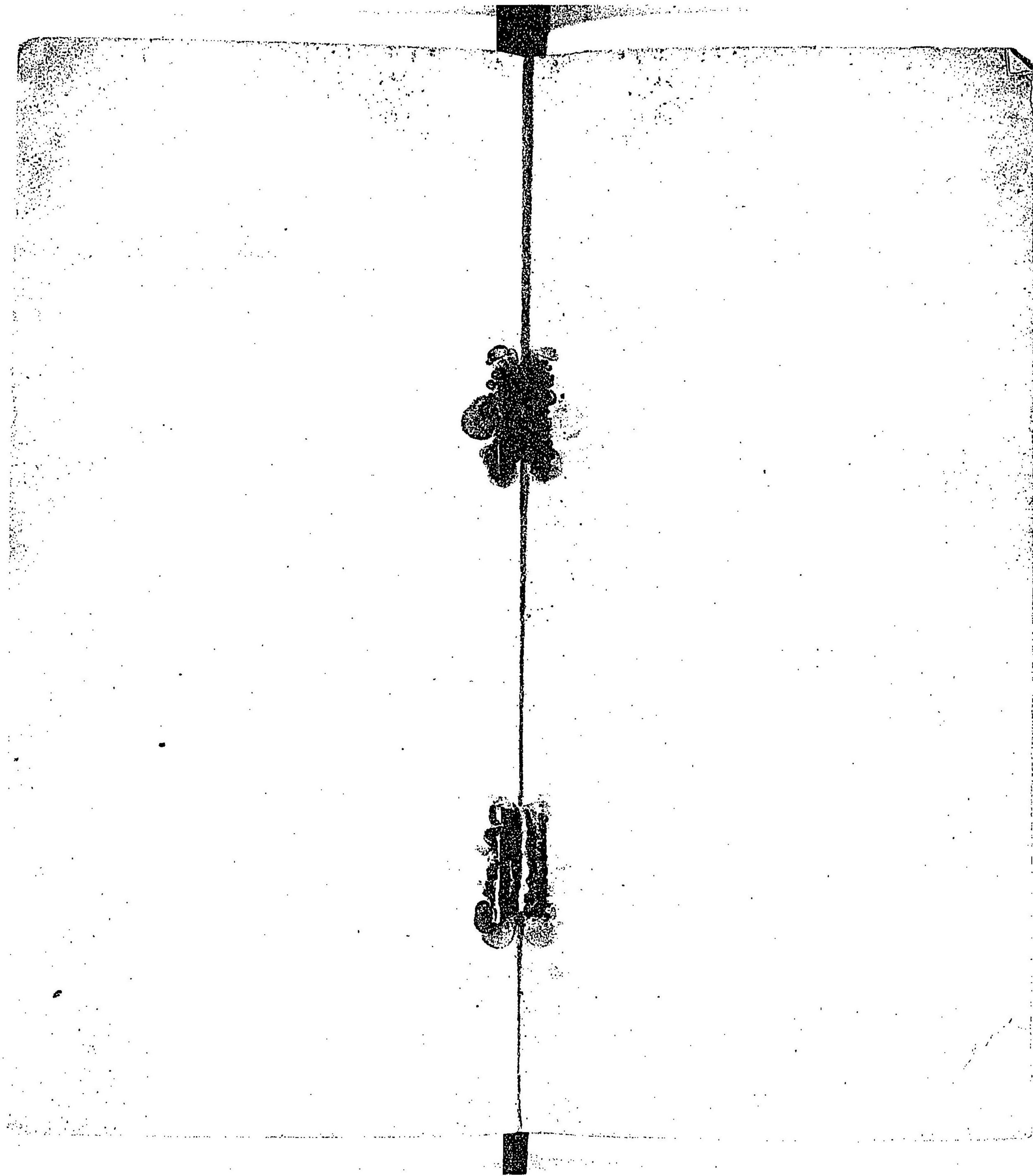
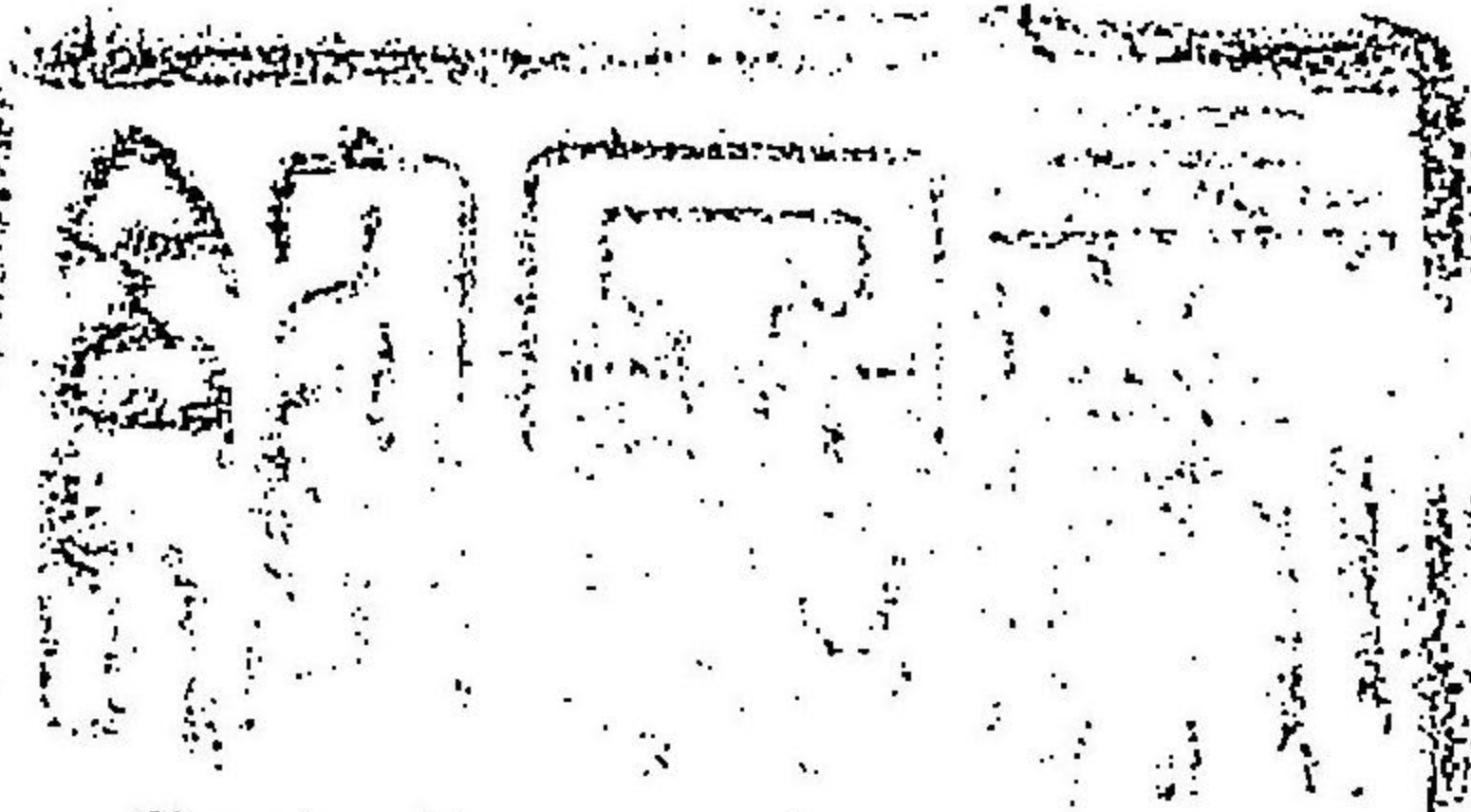


皇  
法  
改  
正  
刑  
法

皇  
法  
改  
正  
刑  
法



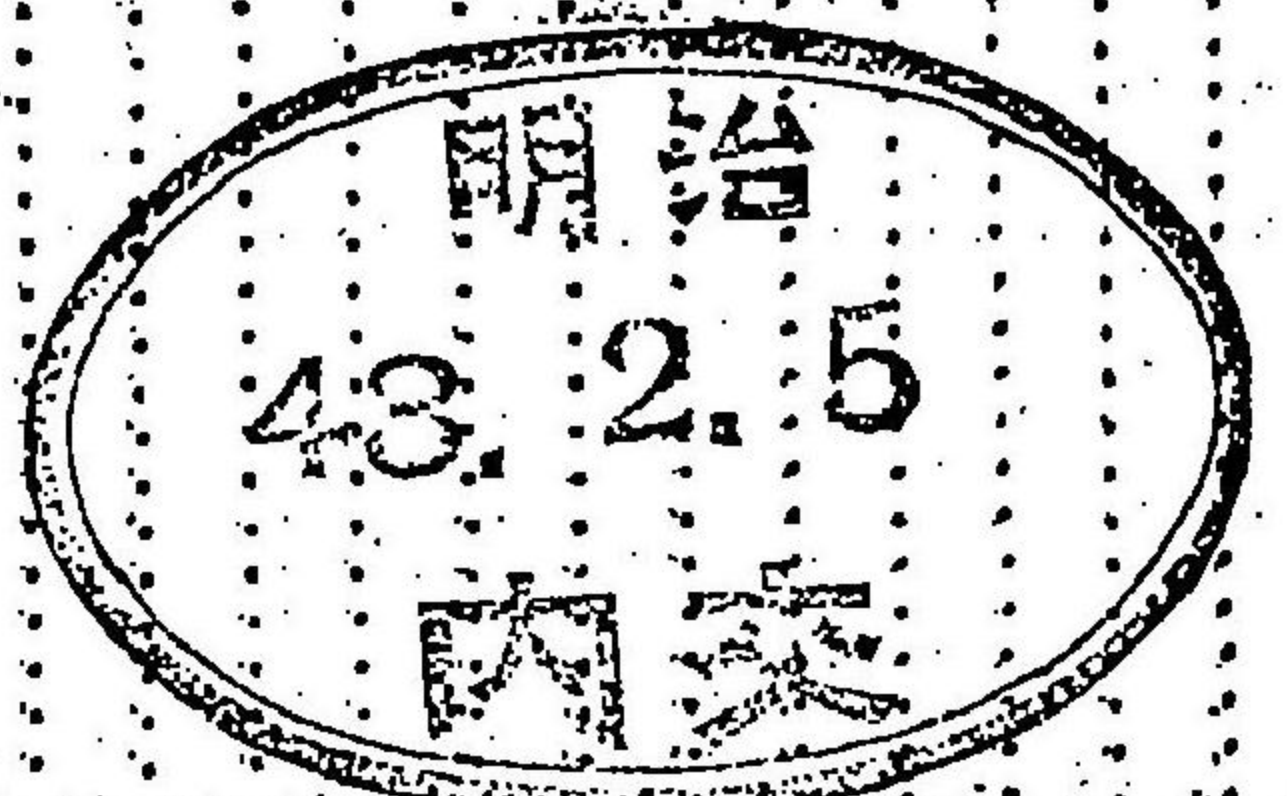
CZ  
711  
0117  
特 61  
755



刑 法 目 次

刑法及附屬法規目次

第一章	刑法
第二章	第一編 總則
第三章	第一章 法例
第四章	第二章 刑罰計算
第五章	第三章 刑ノ執行猶豫
第六章	第四章 假出獄
第七章	第五章 時効
第八章	第六章 犯罪ノ不成立及七刑ノ減免
第九章	第七章 未遂罪
第十章	第八章 併合罪
第十一章	第九章 累犯
第十二章	第十章 共犯



第三十三章	略取及ヒ誘拐ノ罪	四
第三十二章	脅迫ノ罪	四
第三十一章	逮捕及ヒ監禁ノ罪	四
第三十章	遺棄ノ罪	四
第二十九章	墮胎ノ罪	四
第二十八章	過失傷害ノ罪	四
第二十七章	傷害ノ罪	四
第二十六章	殺人ノ罪	六
第二十五章	瀆職ノ罪	六
第二十四章	禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪	六
第二十三章	賭博及ヒ富饒ニ關スル罪	六
第二十二章	猥褻、姦淫及ヒ重婚ノ罪	五
第二十一章	誣告ノ罪	五
第二十章	偽證ノ罪	三
第十九章	印章偽造ノ罪	三
第十八章	有價證券偽造ノ罪	三
第十七章	文書偽造ノ罪	三
第十六章	通貨偽造ノ罪	三

第十三章	酌量減輕	五
第十三章	加減例	五
第二編 罪		
第一章	皇室ニ對スル罪	六
第二章	内亂ニ關スル罪	六
第三章	外患ニ關スル罪	七
第四章	國交ニ關スル罪	六
第五章	公務ヲ執行シテ妨害スル罪	九
第六章	逃走ノ罪	〇
第七章	犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪	〇
第八章	騷擾ノ罪	二
第九章	放火及ヒ失火ノ罪	三
第十章	溢水及ヒ水利ニ關スル罪	三
第十一章	往來ヲ妨害スル罪	四
第十二章	住居ヲ侵スル罪	五
第十三章	祕密ヲ侵スル罪	六
第十四章	阿片煙ニ關スル罪	七
第十五章	飲料水ニ關スル罪	六

第三十四章	名譽ニ對スル罪	四
第三十五章	信用及ニ業務ニ對スル罪	四
第三十六章	竊盜及ニ強盜ノ罪	四
第三十七章	詐欺及ニ恐嚇ノ罪	四
第三十八章	横領ノ罪	四
第三十九章	贓物ニ關スル罪	四
第四十章	毀棄及ニ隱匿ノ罪	四
刑法施行法		五
第一編	警察犯處罰令及附屬法規	六
警察犯處罰令		六
刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件		六
決闘罪ニ關スル件		六
爆發物取締罰則		六
外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證券偽造變造及模造ニ關スル件		六
通貨及證券模造取締法		六
紙幣類似證券取締法		六

懸賞又ハ富籤類似其ノ他射倖方法提供ノ行爲取締方	六
命令ノ條項違犯ニ關スル罰則ノ件	六
閣令省令廳令府縣令及警察令ニ關スル罰則	六

刑法及附屬法規

第一編 刑法及刑法施行法

刑法

(明治四十年四月法律第四十五號)

第一章 總則

第一條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

第二條 帝國外ニ在ル帝國船舶内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付キ亦同シ

第三條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

一 第七十三條乃至第七十六條ノ罪

二 第七十七條乃至第七十九條ノ罪

三 第八十一條乃至第八十九條ノ罪

四 第四百十八條ノ罪及ヒ其未遂罪

五 第五百十四條、第五百十五條、第五百十七條及ヒ第五百十八條ノ

第六條 第百六十二條及第百六十三條ノ罪  
 第七條 第百六十四條乃至第百六十六條ノ罪及第百六十四條第二項、第百六十五條第二項、第百六十六條第二項ノ未遂罪  
 第三條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國臣民ニ之ヲ適用ス  
 第一條 第百八條、第百九條第一項ノ罪、第百八條、第百九條第一項ノ例ニ依リ處斷ス可キ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪  
 第二條 第百十九條ノ罪  
 第三條 第百五十九條乃至第百六十一條ノ罪  
 第四條 第百六十七條ノ罪及ヒ同條第二項ノ未遂罪  
 第五條 第百七十六條乃至第百七十九條、第百八十一條及ヒ第百八十四條ノ罪  
 第六條 第百九十九條、第二百條ノ罪及ヒ其未遂罪  
 第七條 第百四條及ヒ第百五條ノ罪  
 第八條 第百二十四條乃至第百二十六條ノ罪  
 第九條 第百二十八條ノ罪及ヒ同條ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死傷ニ致シタル罪  
 第十條 第百二十條及ヒ第百二十一條ノ罪

第十一條 第百二十四條乃至第百二十八條ノ罪  
 第十二條 第百三十條ノ罪  
 第十三條 第百三十五條、第百三十六條、第百三十八條乃至第百四十條ノ罪  
 第十四條 第百四十六條乃至第百五十五條ノ罪  
 第十五條 第百五十三條ノ罪  
 第十六條 第百五十六條第二項ノ罪  
 帝國外ニ於テ帝國臣民ニ對シテ前項ノ罪ヲ犯シタル外國人ニ付テ亦同シ  
 第四條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國之公務員ニ之ヲ適用ス  
 第一條 第百一條ノ罪及ヒ其未遂罪  
 第二條 第百五十六條ノ罪  
 第三條 第百九十三條、第百九十五條第三項、第百九十七條ノ罪及ヒ第百九十五條第二項ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死傷ニ致シタル罪  
 第五條 外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタル者ト雖モ同一行為ニ付キ更ニ處罰スルコトヲ妨ケス但犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ刑ノ執行ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得  
 第六條 犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモノヲ適用

第七條 本法ニ於テ公務員ト稱スルハ官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ従事スル議員、委員其他ノ職員ヲ謂フ

第八條 本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニ亦之ヲ適用ス但其法令ニ特別ノ規定アルトキハ此限ニ在ラズ

第二章 刑

第九條 死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留及ヒ科料ヲ主刑トシ沒收ヲ附加刑トス

第十條 主刑ノ輕重ハ前條記載ノ順序ニ依ル但無期禁錮ト有期懲役トハ禁錮ヲ以テ重シトシ有期禁錮ノ長期有期懲役ノ長期ハ二倍ヲ超スルトキハ禁錮ヲ以テ重シトス

同種ノ刑ハ長期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトシ長期又ハ多額ノ同シキモノハ其短期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトス

二個以上ノ死刑又ハ長期若クハ多額及ヒ短期若クハ多額ノ同シキ同種ノ刑ハ犯情ニ依リ其輕重ヲ定ム

第十一條 死刑ハ監獄内ニ於テ絞首シテ之ヲ執行ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其執行ニ至ルマテ之ヲ監獄ニ拘留ス

第十二條 懲役ハ無期及ヒ有期トシ有期懲役ハ一月以上十五年以下トス懲役ハ監獄ニ拘留シ定役ニ服ス

第十三條 禁錮ハ無期及ヒ有期トシ有期禁錮ハ一月以上十五年以下トス禁錮ハ監獄ニ拘留ス

第十四條 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ加重スル場合ニ於テハ二十年ニ至ルコトヲ得之ヲ減輕スル場合ニ於テハ一月以下ニ降スコトヲ得

第十五條 罰金ハ二十圓以上トス但之ヲ減輕スル場合ニ於テハ二十圓以下ニ降スコトヲ得

第十六條 拘留ハ一日以上三十日未満トシ拘留場ニ拘留ス

第十七條 科料ハ十錢以上二十圓未満トス

第十八條 罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一年以下ノ期間之ヲ勞役場ニ拘留ス

科料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上三十日以下ノ期間之ヲ勞役場ニ拘留ス

科料ヲ併科シタル場合ト雖モ拘留ノ期間ハ六十日ヲ超ユルコトヲ得ス罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル拘留ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡ス可シ



罰金ニ付テハ裁判確定後三十日内科料ニ付テハ裁判確定後十日内ハ本人ノ承諾アルニ非サレハ留置ノ執行ヲ爲スルコトヲ得ス  
 罰金又ハ科料ノ言渡ヲ受ケタル者其幾分ヲ納ムルコトハ罰金又ハ科料ノ全額ト留置日數トノ割合ニ從ヒ其金額ニ相當スル日數ヲ控除シテ之ヲ留置ス  
 留置期間内罰金又ハ科料ヲ納ムルトキハ前項ノ割合ヲ以テ殘日數ニ充ツ  
 留置一日ノ割合ニ滿タサル金額ハ之ヲ納ムルコトヲ得ス  
**第十九條** 左ニ記載シタル物ハ之ヲ沒收スルコトヲ得ス  
 一 犯罪行爲ヲ組成シタル物  
 二 犯罪行爲ニ供シ又ハ供セントシタル物  
 三 犯罪行爲ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物  
 沒收ハ其物犯人以外ノ者ニ屬セサルトキニ限ル  
**第二十條** 拘留又ハ科料ノミニ該ル罪ニ付テハ特別ノ規定アルニ非サレハ沒收ヲ科スルコトヲ得ス但前條第一項第一號ニ記載シタル物ヲ沒收ハ此限ニ在ラス  
**第二十一條** 未決拘留ノ日數ハ其全部又ハ一部ヲ本刑ニ算入スルコトヲ得

第三章 期間計算

**第二十二條** 期間ヲ定ムルニ月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ計算ス

**第二十三條** 刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算スルニシテ起算ノ日ハ拘留禁セラレサル日數ハ裁判確定後ト雖モ刑期ニ算入セス

**第二十四條** 受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス全一日トシテ之ヲ計算ス時効期間ノ初日亦同シ  
 放免ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フ

**第二十五條** 左ニ記載シタル者三年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタルトキハ情狀ニ因リ裁判確定ノ日ヨリ一年以上五年以下ノ期間内其執行ヲ猶豫スルコトヲ得

一 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者  
 二 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

**第二十六條** 左ニ記載シタル場合ニ於テハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可シ  
 一 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者  
 二 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

一 猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ  
二 猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三 前條第二號ニ記載シタル者ヲ除ク外猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ  
三十七條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サルルコトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過シタルトキハ刑ノ言渡ハ其效力ヲ失フ

第五章 假出獄

第二十八條 懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者改悛ノ狀アルモハ有期刑ニ付テハ其刑期三分ノ一無期刑ニ付テハ十年ヲ經過シタル後行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得  
第二十九條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ假出獄ノ處分ヲ取消スコトヲ得

一 假出獄中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ  
二 假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ  
三 假出獄前他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其刑ノ執行ヲ爲ス可キトキ

四 假出獄取締規則ニ違背シタルトキ

第三十條 拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因リ何時ニテモ行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出場ヲ許スコトヲ得  
罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサルニ因リ留置セラレタル者亦同シ

第六章 時効

第三十一條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ時効ニ因リ其執行ノ免除ヲ得  
第三十二條 時効ハ刑ノ言渡確定シタル後左ノ期間内其執行ヲ受ケサルニ因リ完成ス

- 一 死刑ハ三十年
- 二 無期ノ懲役又ハ禁錮ハ二十年
- 三 有期ノ懲役又ハ禁錮ハ十年以上ハ十五年、三年以上ハ十年、三年未満ハ五年
- 四 罰金ハ三年

五 拘留、科料及ヒ沒收ハ一年

第三十三條 時効ハ法令ニ依リ執行ヲ猶豫シ又ハ之ヲ停止シタル期間内ハ進行セズ  
第三十四條 時効ハ刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルニ因リ之ヲ中斷ス

罰金、科料及ヒ沒收ノ時效ハ執行行為ヲ爲シタルニ因リ之ヲ中斷スル  
 第七章 犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免  
 第三十五條 法令又ハ正當ノ業務ニ因テ爲シタル行為ハ之ヲ罰セズ  
 第三十六條 急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メ  
 已ムコトヲ得サルニ出テタル行為ハ之ヲ罰セス  
 防衛ノ程度ヲ超エタル行為ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコト  
 ヲ得  
 第三十七條 自己又ハ他人ノ生命、身體、自由若クハ財産ニ對スル現在  
 ヲ危難ヲ避クル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行為ハ其行為ヨリ生  
 シタル害其避ケントシタル害ノ程度ヲ超エサル場合ニ限り之ヲ罰セス  
 但シ其程度ヲ超エタル行為ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ  
 得  
 前項ノ規定ハ業務上特別ノ義務アル者ニハ之ヲ適用セス  
 第三十八條 罪ヲ犯ス意ナキ行為ハ之ヲ罰セス但法律ニ特別ノ規定アル  
 場合ハ此限ニ在ラス  
 犯罪本重ナル可クシテ犯ストキ知ラサル者ハ其重キニ從テ處斷スルコト  
 ヲ得ス  
 法律ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スコトヲ得ス但情狀ニ因リ

其刑ヲ減輕スルコトヲ得  
 第三十九條 心神喪失者ノ行為ハ之ヲ罰セス  
 心神耗弱者ノ行為ハ其刑ヲ減輕ス  
 第四十條 瘡痍者ノ行為ハ之ヲ罰セス又ハ其刑ヲ減輕ス  
 第四十一條 十四歳ニ滿タサル者ノ行為ハ之ヲ罰セス  
 第四十二條 罪ヲ犯シ未タ官ニ發覺セサル前自首シタル者ハ其刑ヲ減輕  
 スルコトヲ得  
 告訴ヲ待テ論ス可キ罪ニ付キ告訴權ヲ有スル者ニ首服シタル者亦同シ  
 第八章 未遂罪  
 第四十三條 犯罪ノ實行ニ著手シ之ヲ遂ケサル者ハ其刑ヲ減輕スルコト  
 ヲ得但自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス  
 第四十四條 未遂罪ヲ罰スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ム  
 第九章 併合罪  
 第四十五條 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁  
 判アリタルトキハ止メ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪ト  
 ス  
 第四十六條 併合罪中其一罪ニ付キ死刑ニ處ス可キトキハ他ノ刑ヲ科セ  
 ス但沒收ハ此限ニ在ラス

其一罪ニ付キ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キトキ亦他ノ刑ヲ科セス但  
 罰金ノ科料及ヒ沒收ハ此限ニ在ラス  
 第四十七條 併合罪中二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キ罪アル  
 トキハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノ  
 ヲ以テ長期トス但各罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ヲ合算シタルモノニ超  
 エルコトヲ得ス  
 第四十八條 罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條第一項ノ場合ハ  
 此限ニ在ラス  
 二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷ス  
 第四十九條 併合罪中重キ罪ニ沒收ナシト雖モ他ノ罪ニ沒收アルトキハ  
 之ヲ附加スルコトヲ得

第五十條 併合罪中既ニ裁判ヲ經タル罪ト未タ裁判ヲ經サル罪トアルト  
 キハ更ニ裁判ヲ經サル罪ニ付キ處斷ス  
 第五十一條 併合罪ニ付キ三個以上ノ裁判アリタルトキハ其刑ヲ併セテ  
 之ヲ執行ス但死刑ヲ執行ス可キトキハ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス  
 無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行ス可キトキハ罰金ノ科料及ヒ沒收ヲ除ク外  
 他ノ刑ヲ執行セス有期ノ懲役又ハ禁錮ノ執行ハ其最モ重キ罪ニ付キ定

メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノニ超エルコトヲ得ス  
 第五十二條 併合罪ニ付キ處斷セラレタル者或罪ニ付キ大赦ヲ受ケタル  
 場合ニ於テハ特大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ刑ヲ定ム

第五十三條 拘留又ハ科料ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條ノ場合  
 ハ此限ニ在ラス  
 二個以上ノ拘留又ハ科料ハ之ヲ併科ス  
 第五十四條 一個ノ行為ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ  
 結果タル行為ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷  
 ス

第四十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス  
 第五十五條 連續シタル數個ノ行為ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ一  
 罪トシテ之ヲ處斷ス

第十章 累犯  
 第五十六條 懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタ  
 ル日ヨリ五年内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキハ之ヲ再犯ト  
 ス

懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者其執行ノ免除ア  
 リタル日ヨリ又ハ減刑ニ因リ懲役ニ減輕セラレ其執行ヲ終リ若クハ執

行ノ免除アリタル日ヨリ前項ノ期間内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキ亦同シ  
併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中懲役ニ處ス可キ罪アリタルトキハ其罪最重ノモノニ非ズモ雖モ再犯例ノ適用ニ付テハ懲役ニ處セラレタルモノト看做ス  
第五十七條 再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ定メタル懲役ノ長期ノ二倍以下トス  
第五十八條 裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ加重ス可キ刑ヲ定ム  
懲役ノ執行ヲ終リタル後又ハ其執行ノ免除アリタル後發見セラレタル者ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セズ  
第五十九條 三犯以上ノ者ト雖モ仍ホ再犯ノ例ニ同シ  
第十一章 共 犯  
第六十條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス  
第六十一條 人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス  
教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ  
第六十二條 正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス  
從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ準ス  
第六十三條 從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕スルコトヲ得

第六十四條 拘留又ハ科料ノミニニ處ス可キ罪ノ教唆者及ヒ從犯ハ特別ノ規定アルニ非サレハ之ヲ罰セス  
第六十五條 犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪行為ニ加功シタルトキハ其身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トス  
身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科ス  
第十二章 酌量減輕  
第六十六條 犯罪ノ情狀憫諒ス可キモノハ酌量シテ其刑ヲ減輕スルコトヲ得  
第六十七條 法律ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スル場合ト雖モ仍ホ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得  
第十三章 加減例  
第六十八條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ一個又ハ數個ノ原由アルトキハ左ノ例ニ依ル  
一 死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期又ハ十年以上ノ懲役若クハ禁錮トス  
二 無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ七年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮トス  
三 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ其刑期ノ二分ノ一ヲ減ス  
四 罰金ヲ減輕ス可キトキハ其金額ノ二分ノ一ヲ減ス

五 拘留ヲ減輕ス可キトキハ其長期ノ二分ノ一ヲ減ス  
 六 科料ヲ減輕ス可キトキハ其多額ノ二分ノ一ヲ減ス  
 第六十九條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ場合ニ於テ各本條ニ二個以上ノ刑名アルトキハ先ツ適用ス可キ刑ヲ定メ其刑ヲ減輕ス  
 第七十條 懲役、禁錮又ハ拘留ヲ減輕スルニ因リ一日ニ滿タサル時間ヲ剩ストキハ之ヲ除棄ス

罰金又ハ科料ヲ減輕スルニ因リ一錢ニ滿タサル金額ヲ剩ストキ亦同シ  
 第七十一條 酌量減輕ヲ爲ス可キトキ亦第六十八條及ヒ前條ノ例ニ依ル  
 第七十二條 同時ニ刑ヲ加重減輕ス可キトキハ左ノ順序ニ依ル

- 一 再犯加重
- 二 法律上ノ減輕
- 三 併合罪ノ加重
- 四 酌量減輕

第二章 皇室ニ對スル罪

第七十三條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス  
 第七十四條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ

不敬ノ行爲アリタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス  
 神宮又ハ皇陵ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者亦同シ

第七十五條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期懲役ニ處ス

第七十六條 皇族ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ二月以上四年以下ノ懲役ニ處ス

第二章 内亂ニ關スル罪

第七十七條 政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的トシテ暴動ヲ爲シタル者ハ内亂ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 首魁ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス
- 二 謀議ニ參與シ又ハ群集ノ指揮ヲ爲シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ禁錮ニ處シ其他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス
- 三 附和隨行シ其他單ニ暴動ニ干與シタル者ハ三年以上ノ禁錮ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但前項第三號ニ記載シタル者ハ此限ニ在ラス

第七十八條 内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

第七十九條 兵器、金穀ヲ資給シ又ハ其他ノ行爲ヲ以テ前二條ノ罪ヲ幫

助シタル者ハ七年以下ノ禁錮ニ處ス  
第八十條 前二條ノ罪ヲ犯スト雖モ未タ暴動ニ至ラサル前自首シタル者  
ハ其刑ヲ免除ス

第三章 外患ニ關スル罪

第八十一條 外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメ又ハ敵國ニ與シ  
テ帝國ニ抗敵シタル者ハ死刑ニ處ス

第八十二條 要塞、陣營、軍隊、艦船其他軍用ニ供スル場所又ハ建造物  
ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス  
兵器、彈藥其他軍用ニ供スル物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑又ハ無期  
懲役ニ處ス

第八十三條 敵國ヲ利スル爲メ要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥、汽車、  
電車、鐵道、電線其他軍用ニ供スル場所又ハ物ヲ損壞シ若クハ使用ス  
ルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十四條 帝國ノ軍用ニ供セサル兵器、彈藥其他直接ニ戰闘ニ用ニ供  
ス可キ物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第八十五條 敵國ノ爲メニ間謀ヲ爲シ又ハ敵國ノ間謀ヲ幫助シタル者ハ  
死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス  
軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル者亦同シ

第八十六條 前五條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益  
ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ  
處ス

第八十七條 前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第八十八條 第八十一條乃至第八十六條ニ記載シタル罪ノ豫備又ハ陰謀  
ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第八十九條 本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

第四章 國交ニ關スル罪

第九十條 帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ  
加ヘタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ三年  
以下ノ懲役ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第九十一條 帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加  
ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ二年以下  
ノ懲役ニ處ス但被害者ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第九十二條 外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其國ノ國旗其他ノ國章  
ヲ損壞シ除去又ハ汚穢シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰

金ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス  
 第九十三條 外國ニ對シ私ニ戰闘ヲ爲ス目的ヲ以テ其豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ禁錮ニ處ス但自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

第九十四條 外國交戦ノ際局外中立ニ關スル命令ニ違背シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五節 公務ノ執行ヲ妨害スル罪  
 第九十五條 公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若クハ爲ササラシムル爲メ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者亦同シ

第九十六條 公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無効トラシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六章 逃走ノ罪  
 第九十七條 既決、未決ノ囚人逃走シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第九十八條 既決、未決ノ囚人又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル者拘禁場又ハ械具ヲ損壞シ若クハ暴行、脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上同謀シテ逃走シ

タルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス  
 第九十九條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ奪取シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第一百條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第一百一條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ヲ逃走セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第一百二條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第七章 犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪  
 第一百三條 罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ヲ藏匿シ又ハ隠避セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百四條 他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ湮滅シ又ハ偽造繼造シ若クハ偽造、變造ノ證憑ヲ使用シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス



第二百五條 本章ノ罪ハ犯人又ハ逃走者ノ親族ニシテ犯人又ハ逃走者ノ利益ノ爲メニ犯シタルトキハ之ヲ罰セス

第八章 騷擾ノ罪

第百六條 多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ騷擾ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 首魁ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 三 附和隨行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百七條 暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲メ多衆聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受ケルコト三回以上ニ及フモ仍ホ解散セサルトキハ首魁ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其他ノ者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九章 放火及ヒ失火ノ罪  
第百八條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第百九條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス但公共ノ危險ヲ生セサルトキハ之ヲ罰セス

第百十條 火ヲ放テ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第百十一條 第百九條第二項又ハ前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ第百八條又ハ第百九條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ前條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第百十二條 第百八條及ヒ第百九條第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス  
第百十三條 第百八條又ハ第百九條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

第百十四條 火災ノ際鎮火用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎮火ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第百十五條 第百九條第一項及ヒ第百十條第一項ニ記載シタル物自己ノ

所有ニ係ルト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ貸貸シ若クハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ同シ

**第百十六條** 火ヲ失シテ第百八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル火ヲ失シテ自己ノ所有ニ係ル物ヲ燒燬シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

**第百十七條** 火藥、汽罐其他激發ス可キ物ヲ破裂セシメテ第百八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル物ヲ損壞シタル者ハ放火ノ例ニ同シ自己ノ所有ニ係ル物ヲ損壞シタル者ハ第百十條ニ記載シタル物ヲ損壞シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

前項ノ行爲過失ニ出テタルトキハ失火ノ例ニ同シ

**第百十八條** 瓦斯、電氣又ハ蒸氣ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ノ生命、身體又ハ財產ニ危險ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

瓦斯、電氣又ハ蒸氣ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

**第十章 溢水及ヒ水利ニ關スル罪**

**第百十九條** 溢水セシメテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車若クハ鑛坑ヲ浸害シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

**第百二十條** 溢水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ浸害シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

浸害シタル物自己ノ所有ニ係ルトキハ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ貸貸シ若クハ保險ニ付シタル場合ニ限り前項ノ例ニ依ル

**第百二十一條** 水害ノ際防水用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ防水ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

**第百二十二條** 過失ニ因リ溢水セシメテ第百十九條ニ記載シタル物ヲ浸害シタル者又ハ第百二十條ニ記載シタル物ヲ浸害シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

**第百二十三條** 堤防ヲ決潰シ、水閘ヲ破壞シ其他水利ノ妨害ト爲ル可キ行爲又ハ溢水セシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

**第十一章 往來ヲ妨害スル罪**

**第百二十四條** 陸路、水路又ハ橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シテ往來ノ妨害ヲ生セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百二十五條 鐵道又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ汽車又ハ電車ノ往來ノ危険ヲ生セシメタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス  
燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ艦船ノ往來ノ危険ヲ生セシメタル者亦同シ

第二百二十六條 人ノ現在スル汽車又ハ電車ヲ顛覆又ハ破壞シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

人ノ現在スル艦船ヲ覆没又ハ破壞シタル者亦同シ  
前二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百二十七條 第二百二十五條ノ罪ヲ犯シ因テ汽車又ハ電車ノ顛覆若クハ破壞又ハ艦船ノ覆没若クハ破壞ヲ致シタル者亦前條ノ例ニ同シ

第二百二十八條 第二百二十四條第一項、第二百二十五條及ヒ第二百二十六條第一項、第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百二十九條 過失ニ因リ汽車、電車又ハ艦船ノ往來ノ危険ヲ生セシメ又ハ汽車、電車ノ顛覆若クハ破壞又ハ艦船ノ覆没若クハ破壞ヲ致シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス  
其業務ニ從事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以上ノ禁錮又ハ千

圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二章 住居ヲ侵ス罪

第二百三十條 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ艦船ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ三年以上ノ懲役

又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス  
第二百三十一條 故ナク皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ侵入シタル者ハ三

月以上五年以下ノ懲役ニ處ス  
神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル者亦同シ

第二百三十二條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス  
第十三章 秘密ヲ侵ス罪

第二百三十三條 故ナク封緘シタル信書ヲ開披シタル者ハ一年以下ノ懲役

又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第二百三十四條 醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人

又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ

處ス  
宗敎若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキ亦同シ

第三百三十五條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第十四章 阿片煙ニ關スル罪

第三百三十六條 阿片煙ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ

之ヲ所持シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第三百三十七條 阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販

賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第三百三十八條 稅關官吏阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ輸入シ又ハ其輸

入ヲ許シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第三百三十九條 阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル者ハ六月以上七年

以下ノ懲役ニ處ス

第四百十條 阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所持シタル者ハ一年以下ノ

懲役ニ處ス

第四百十一條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十五章 飲料水ニ關スル罪

第四百十二條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハ

サルニ至ラシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十三條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ヲ汚穢

シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以上七年以下

ノ懲役ニ處ス

第四百十四條 人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ

混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第四百十五條 前三條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪

ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百十六條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物

其他ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處

ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處

ス

第四百十七條 公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ壅塞シタル者

ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第十六章 通貨偽造ノ罪

第四百十八條 行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又

ハ變造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之

ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

第四百十九條 行使ノ目的ヲ以テ内國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ

銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス  
偽造、變造ノ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

第一百五十條 行使ノ目的ヲ以テ偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第一百五十一條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一百五十二條 貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ取得シタル後其偽造又ハ變造ナルコトヲ知テ之ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シタル者ハ其名價三倍以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一圓以下ニ降スコトヲ得ス

第一百五十三條 貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ偽造又ハ變造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ準備シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第十七章 文書偽造ノ罪

第一百五十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

御璽、國璽ヲ捺捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル者亦同シ

第一百五十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ

使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者亦同シ

前三項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ公務所又ハ公務員ノ作リタル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百五十六條 公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作リ又ハ文書若クハ圖畫ヲ變造シタルトキハ印章、署名ノ有無ヲ區別シ前三條ノ例ニ依ル

第一百五十七條 公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ權利、義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス  
前三項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第五十八條 前四條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第五十九條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十條 醫師公務所ニ提出ス可キ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十一條 前二條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者ト同一ノ刑ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十八章 有價證券偽造ノ罪

第六十二條 行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券又ハ他ノ有價證券ヲ偽造シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

行使ノ目的ヲ以テ有價證券ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタル者亦同シ

第六十三條 偽造、變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル者券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十九章 印章偽造ノ罪

第六十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ偽造シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル御璽、國璽又ハ御名ヲ使用シタル者亦同シ

第六十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公

務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ  
第三百六十六條 行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造シタル者ハ三年以  
下ノ懲役ニ處ス

公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所ノ記號ヲ使用シタ  
ル者亦同シ

第三百六十七條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者  
ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル印章若クハ署名  
ヲ使用シタル者亦同シ

第三百六十八條 第六十四條第二項、第六十五條第二項、第六十六  
條第二項及七前條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百零二條 偽證ノ罪  
第三百六十九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ  
三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第三百七十條 前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲  
戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三百七十一條 法律ニ依リ宣誓シタル鑑定人又ハ通事虛偽ノ鑑定又ハ通  
譯ヲ爲シタルトキハ前二條ノ例ニ同シ

第二十一章 誣告ノ罪

第三百七十二條 人ヲシテ刑事事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虛  
偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ第六十九條ノ例ニ同シ

第三百七十三條 前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ノ裁判確定前又ハ  
懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十二章 猥褻、姦淫及ヒ重婚ノ罪

第三百七十四條 公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

第三百七十五條 猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物ヲ頒布若クハ販賣シ又ハ公然  
之ヲ陳列シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス販賣ノ目的ヲ以  
テ之ヲ所持シタル者亦同シ

第三百七十六條 十三歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲  
ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル男女

ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同シ

第三百七十七條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歳以上ノ婦女ヲ姦淫シタル者ハ  
強姦ノ罪ト爲シ二年以上ノ有期懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル婦女ヲ姦  
淫シタル者亦同シ

第三百七十八條 人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲシテ心神ヲ  
喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル

者前二條ノ例ニ同シ  
**第七十九條** 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス  
**第八十條** 前四條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス  
**第八十一條** 第七十六條乃至第七十九條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷  
 致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス  
**第八十二條** 營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セ  
 シメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス  
**第八十三條** 有夫ノ婦姦通シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相姦  
 シタル者亦同シ  
 前項ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但本夫姦通ヲ縱容シタルトキハ  
 告訴ノ效力ナシ  
**第八十四條** 配偶者アル者重子ヲ婚姻ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲  
 役ニ處ス其相姦シタル者亦同シ  
**第二十三章 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪**  
**第八十五條** 偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戯又ハ賭事ヲ爲シタル者  
 ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル  
 者ハ此限ニ在ラズ  
**第八十六條** 常習トシテ博戯又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役

ニ處ス  
 賭博場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ三月以上五年以  
 下ノ懲役ニ處ス  
**第八十七條** 富籤ヲ發賣シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ  
 罰金ニ處ス  
 富籤發賣ノ取次ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金  
 ニ處ス  
 前二項ノ外富籤ヲ授受シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス  
**第二十四章 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪**  
**第八十八條** 神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アリ  
 タル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス  
 說教、禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ  
 百圓以下ノ罰金ニ處ス  
**第八十九條** 墳墓ヲ發掘シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス  
**第九十條** 死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又  
 ハ領得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス  
**第九十一條** 第八十九條ノ罪ヲ犯シ死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏  
 置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役



二處ス  
 第二百九十二條 檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル者ハ五十圓以下ノ罰金  
 又ハ科料ニ處ス  
 第二十五章 濫職ノ罪

第二百九十三條 公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又  
 ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス  
 第二百九十四條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職  
 權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役又  
 ハ禁錮ニ處ス

第二百九十五條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職  
 務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シ  
 タルトキハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス  
 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ニ對シ暴  
 行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキ 亦同シ  
 第二百九十六條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪  
 ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百九十七條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要  
 求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲

シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス  
 前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一部ヲ  
 沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徴ス

第二百九十八條 公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者  
 ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス  
 前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコト  
 ヲ得

第二十六章 殺人ノ罪  
 第二百九十九條 人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ  
 處ス

第二百條 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役  
 ニ處ス

第二百一條 前二條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以  
 下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

第二百二條 人ヲ教唆若クハ幫助シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑托ヲ受  
 ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ  
 禁錮ニ處ス  
 第二百三條 第二百九十九條、第二百條及ヒ前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十七條 傷害ノ罪  
人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二十五條 身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百六條 前二條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタル者ハ自ら人ヲ傷害セスト雖モ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百七條 二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサルトキハ共同者ニ非スト雖モ共犯ノ例ニ依ル

第二百八條 暴行ヲ加ヘタル者人ヲ傷害スルニ至ラサルトキハ一年以下ノ懲役若クハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス  
第二十八條 過失傷害ノ罪  
第二百九條 過失ニ因リ人ヲ傷害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス  
第二百十條 過失ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百十一條 業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 墮胎ノ罪  
第二百十二條 懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十三條 婦女ノ囑托ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十四條 醫師、産婆、藥劑師又ハ藥種商婦女ノ囑托ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十五條 婦女ノ囑托ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得スシテ墮胎セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス  
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百十六條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪

比較シ重キニ從テ處斷ス  
第三十章 遺棄ノ罪  
第二百十七條 老幼、不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者ヲ遺棄シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十八條 老若、幼者、不具者又ハ病者ヲ保護ス可キ責任アル者之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲ササルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス  
第二百十九條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百一十條 逮捕及ヒ監禁ノ罪  
第二百二十條 不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス  
第二百二十一條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百二十二章 脅迫ノ罪  
第二百二十二條 生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者亦同シ  
第二百二十三條 生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ又ハ暴行ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者亦同シ  
前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス  
第三十三章 略取及ヒ誘拐ノ罪  
第二百二十四條 未成年者ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十五條 營利、猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第三百二十二章 脅迫ノ罪

第二百二十二條 生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者亦同シ  
第二百二十三條 生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ又ハ暴行ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者亦同シ  
前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス  
第三十三章 略取及ヒ誘拐ノ罪

第二百二十四條 未成年者ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十五條 營利、猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十六條 帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シ又ハ被拐取者若クハ被賣者ヲ帝國外ニ移送シタル者亦同シ

第二百二十七條 前三條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幫助スル目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受若クハ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

營利又ハ無業ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十八條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百二十九條 第二百二十六條ノ罪、同條ノ罪ヲ幫助スル目的ヲ以テ犯シタル者ハ第二十七條第一項ノ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪ヲ除ク外本章ノ罪ハ營利ノ目的ニ出テサル場合ニ限り告訴ヲ待テ之ヲ論ス但被拐取者又ハ被賣者犯人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ無効又ハ取消ノ裁判確定ノ後ニ非サレバ告訴ノ効ナシ

第三十四章 名譽ニ對スル罪

第二百三十條 公然事實ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其事實ノ有無ヲ問ハズ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ誣罔ニ出ツルニ非サレバ之ヲ罰セス

第二百三十一條 事實ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第二百三十二條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三十五章 信用及ヒ業務ニ對スル罪

第二百三十三條 虛偽ノ風説ヲ流布シ又ハ僞計ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十四條 威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル者亦前條ノ例ニ同シ

第三十六章 竊盜及ヒ強盜ノ罪

第二百三十五條 他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百三十六條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ五年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百三十七條 強盜ノ目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第二百三十八條

竊盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免シ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ強盜ヲ以テ論ス

第二百三十九條

人ヲ昏醉セシメテ其財物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

第二百四十條

強盜人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス

第二百四十一條

強盜婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス

第二百四十二條

自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命ニ因テ他人ノ看守シタルモノナルトキハ本章ノ罪ニ付テハ他人ノ財物ト看做ス

第二百四十三條

第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條乃至第二百四十一條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百四十四條

直系血族、配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族ノ間ニ於テ親族又ハ家族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二百四十五條

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

第二百四十六條

本章ノ罪ニ付テハ電氣ハ之ヲ財物ト看做ス

第三十七章

詐欺及ヒ恐喝ノ罪

第二百四十七條

他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十八條

未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘シテ其財物ヲ交付セシメ又ハ財産上不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメ又ハ若シ者十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百四十九條

人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百五十條

本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百五十一條

本章ノ罪ニハ第二百四十二條、第二百四十四條及ヒ第

第二百四十五條ノ規定ヲ準用ス  
 第三百三十八條ノ横領ノ罪  
 第二百五十二條 自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス  
 自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者亦同シ  
 第二百五十三條 業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス  
 第二百五十四條 遺失物ヲ漂流物其他占有ヲ離レタル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以上一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス  
 第二百五十五條 本章ノ罪ニ第二百四十四條ノ規定ヲ準用ス  
 第三百二十九章ニ關スル罪  
 第二百五十六條 贓物ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス  
 贓物ヲ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ千圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第二百五十七條 直系血族、配偶者、同居ノ親族又ハ家族及ヒ此等ノ者ニ配偶者ノ間ニ於テ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除ス  
 親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

第四十章 毀棄及ヒ隱匿ノ罪  
 第二百五十八條 公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス  
 第二百五十九條 權利、義務ニ關スル他人ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス  
 第二百六十條 他人ノ建造物又ハ艦船ヲ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス  
 第二百六十一條 前三條ニ記載シタル以外ノ物ヲ損壞又ハ傷害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス  
 第二百六十二條 自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シタルモノヲ損壞又ハ傷害シタルトキハ前三條ノ例ニ依ル  
 第二百六十三條 他人ノ信書ヲ隱匿シタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス  
 第二百六十四條 第二百五十九條、第二百六十二條及ヒ前條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス  
 (國幣四十二圓三錢) 罰金

刑法施行法 (明治四十一年三月法律第二十九號)

第一條 本法ニ於テ舊刑法ト稱スルハ明治十三年第三十六號布告刑法ヲ

謂ヒ他ノ法律ト稱スルハ刑法施行前ニ公布シタル法律及ヒ勅令 布告

第二條 刑法施行前ニ舊刑法ノ罪又ハ他ノ法律ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テ

定ニ依リ其輕重大定

死刑 舊刑法ノ刑

無期懲役 無期徒刑

無期禁錮 無期徒刑

有期懲役 有期徒刑、重懲役、輕懲役、重禁錮

有期禁錮 有期流刑、重禁錮、輕禁錮

罰金 罰金

拘留 拘留

科料 科料

第三條 法律ニ依リ刑ヲ加重減輕ス可キトモ又ハ酌量減輕ヲ爲ス可キト

モハ加重又ハ減輕ヲ爲シタル後刑ノ對照ヲ爲ス可シ

數罪ヲ犯シタル者ニ付テハ併合罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ヲ適用シ

タル後刑ノ對照ヲ爲ス可シ

一罪ニ付キ二個以上ノ主刑ヲ併科ス可キトモ又ハ二個以上ノ主刑中其

一個ヲ科ス可キトモ其中心ニテ重キ刑ノミニ付キ對照ヲ爲ス可シ併合

罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ數罪ノ主刑ヲ併科ス可キトモ亦同

第四條 刑法施行前舊刑法又ハ他ノ法律ノ規定ニ依リ告訴ヲ待テ論ス可

キ罪ヲ犯シタル者ハ刑法ノ規定ニ依リ告訴ヲ要セザルモノト雖モ告訴

アルニ非サレハ其罪ヲ論セス

第五條 刑法第六條ニ依リ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スル場合ニ於テハ

剝奪公權、停止公權、監視又ハ罰金ヲ附加ス可キトモト雖モ之ヲ附加

セス

第六條 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行前又ハ後ニ確定裁判

アリタル後刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ左ノ例

ニ依ル

一 確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖

刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第七條

左ニ記載シタル者刑法施行前更ニ刑法ノ有期懲役ニ相當スル刑ニ該レ罪ヲ犯シ刑法施行後其罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

一 舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ處セラレタル者  
二 舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ該レ罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレ其執行ノ免除ヲ得又ハ減刑ニ因リ懲役ニ相當スル刑ニ減輕セラレタル者

刑法第五十六條第三項ノ規定ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ處斷セラレタル者ニ之ヲ準用ス

第八條

刑法施行前ニ犯シタル一罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキト雖モ其罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第九條 刑法施行前ニ犯シタル數罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキト雖モ其罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十條

刑法施行後ニ犯シタル罪ニ付キ確定裁判アリタル後刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ其罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ確定裁判アリタル罪ト併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十一條

刑法施行後ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ其罪ト併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十二條

第七條第一項各號ニ記載シタル者刑法施行後有期懲役ニ該ル

第十一條

刑法施行後ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ其罪ト併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十二條

第七條第一項各號ニ記載シタル者刑法施行後有期懲役ニ該ル



罪ヲ犯シタル下キハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス  
第七條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三條 刑法施行後ハ舊刑法又ハ舊刑法施行前ノ法令ノ刑ニ處セラレ

但罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル者ヲ勞役場ニ留置スル場合ニ

於テハ檢事ノ請求ニ依リ裁判所決定ヲ以テ其言渡ヲ爲ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ第三條及七明治十四年第八十一號布告第一條ノ例

ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲ス可シ

舊刑法以刑ニ處セラレタル者ノ刑法施行前ニ於ケル時効期間ノ起算及

七時効中斷ニ付テハ期滿免除ニ關スル規定ニ從フ

第十四條 刑法施行後ハ舊刑法ノ刑ニ處ス可キ者ト雖モ刑ノ執行猶豫ニ

付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス

第十五條 刑法施行前假出獄ヲ許サレタル者及ヒ幽閉ヲ免セラレタル者

ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法ノ假出獄ニ關スル規定ヲ準用ス

刑罰施行前罰金又ハ科料ヲ完納セサル者ハ輕禁錮又ハ拘留ニ換ヘラレ

タル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法第十八條及三十條ノ規定ヲ

準用ス但留置ノ日數ハ其執行ノ日ヨリ起算シ刑法第十八條ノ期間ヲ超

ルコトヲ得ス

第十六條 懲治場留置ノ執行ハ刑法施行後ト雖モ從前ノ例ニ從フ但同法

大臣ハ何時ニテモ其留置ヲ解キ又ハ感化院ニ入院セシムルコトヲ得

第十七條 關席判決ヲ以テ言渡シタル刑ノ時効期間ハ其言渡ノ日ヨリ之

ヲ起算ス

第十八條 剝奪公權、停止公權、監視及附加ノ罰金ノ言渡ハ刑法施行ノ

日ヨリ其效力ヲ失フ但既ニ徵收シタル附加ノ罰金ハ之ヲ還付セス

第十九條 附加ノ罰金ヲ納完セサル者ハ換ヘラレタル禁錮ニ付キ亦前項ニ同シ

シテ之ヲ刑法ノ刑名ニ變更ス但單ニ禁錮トアルハ之ヲ有期ノ懲役又ハ

禁錮ニ變更ス

他ノ法律ノ規定中剝奪公權、停止公權、監視及ヒ附加ノ罰金ニ處ス可

キ旨ヲ定メタルモノハ之ヲ廢止ス

第二十條 他ノ法律ニ定メタル刑ニ付テハ其期間又ハ金額ヲ變更セズ但

他ノ法律中特ニ期間又ハ金額ヲ定メサル刑ニ付テハ仍ホ舊刑法總則中

期間又ハ金額ニ關スル規定ニ從フ

第二十一條 他ノ法律ニ定メタル刑ヲ加重又ハ減輕ス可キ場合ニ於テハ

第二十三條ノ場合ヲ除ク外舊刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ依ル

ルコトヲ得ス

第十六條 懲治場留置ノ執行ハ刑法施行後ト雖モ從前ノ例ニ從フ但同法

大臣ハ何時ニテモ其留置ヲ解キ又ハ感化院ニ入院セシムルコトヲ得

第十七條 關席判決ヲ以テ言渡シタル刑ノ時効期間ハ其言渡ノ日ヨリ之

ヲ起算ス

第十八條 剝奪公權、停止公權、監視及附加ノ罰金ノ言渡ハ刑法施行ノ

日ヨリ其效力ヲ失フ但既ニ徵收シタル附加ノ罰金ハ之ヲ還付セス

第十九條 附加ノ罰金ヲ納完セサル者ハ換ヘラレタル禁錮ニ付キ亦前項ニ同シ

シテ之ヲ刑法ノ刑名ニ變更ス但單ニ禁錮トアルハ之ヲ有期ノ懲役又ハ

禁錮ニ變更ス

他ノ法律ノ規定中剝奪公權、停止公權、監視及ヒ附加ノ罰金ニ處ス可

キ旨ヲ定メタルモノハ之ヲ廢止ス

第二十條 他ノ法律ニ定メタル刑ニ付テハ其期間又ハ金額ヲ變更セズ但

他ノ法律中特ニ期間又ハ金額ヲ定メサル刑ニ付テハ仍ホ舊刑法總則中

期間又ハ金額ニ關スル規定ニ從フ

第二十一條 他ノ法律ニ定メタル刑ヲ加重又ハ減輕ス可キ場合ニ於テハ

第二十三條ノ場合ヲ除ク外舊刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ依ル

第二十二條 他ノ法律中舊刑法ノ規定ヲ掲ケ又ハ舊刑法ノ規定ニ依リ若クハ之ニ依ラサルコトヲ定メタル場合ニ付キ刑法中其規定ニ相當スル規定アルモノハ刑法ノ規定ニ變更ス

第二十三條 前條ノ規定ニ依リ刑法ノ刑ヲ適用ス可キ場合ニ於テハ他ノ法律中刑ノ加重ニ關スル特別ノ規定ハ之ヲ適用セス刑ノ減輕ノ方法ニ付テハ刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ從フ

第二十四條 明治二十二年法律第二十八號及ヒ明治二十三年法律第九十九號ハ之ヲ廢止ス

第二十五條 左ニ記載シタル舊刑法ノ規定ハ當分ノ内刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス

一 第二編第三章第五節  
二 第九十八條乃至第二百條  
三 第二編第四章第七節及ヒ第九節  
四 第二編第五章第三節  
五 第三編第二章第四節

刑法第八條ノ規定及ヒ本法中他ノ法律ニ關スル規定ハ之ヲ前項ノ規定ニ準用ス

第二十六條 左ニ記載シタル罪ハ刑法第二條ノ例ニ從フ

一 軍機保護法ニ掲ケタル罪  
二 徵兵令ニ掲ケタル罪

三 明治三十八年法律第六十六號ニ掲ケタル罪  
四 通貨及證券模造取締法ニ掲ケタル罪

五 船舶法ニ掲ケタル罪  
六 船員法ニ掲ケタル罪

七 船舶職員法ニ掲ケタル罪  
八 船舶検査法ニ掲ケタル罪

九 戶籍法ニ掲ケタル罪  
十 郵政法ニ掲ケタル罪

十一 舊刑法中印紙ノ偽造、變造及其知情使用ニ關スル罪  
第十二條 左ニ記載シタル罪ハ刑法第三條ノ例ニ從フ

一 著作權法ニ掲ケタル罪  
二 重要物產同業組合法ニ掲ケタル罪

三 移民保護法ニ掲ケタル罪  
第二十八條 人ノ資格其他ノ事項ニ關シ舊刑法ノ刑名又ハ罪別ヲ掲ケタル他ノ法律ノ規定ハ刑法施行ノ爲メ變更セラルコトナシ

**第二十九條** 死刑、無期又ハ短期一年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ト看做ス

**第三十條** 前條ニ該當セサル懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ト看做ス

前條ニ該當セサル懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ト看做ス

前條ニ該當セサル懲役ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ト看做ス

前條ニ該當セサル懲役ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ト看做ス

前條ニ該當セサル懲役ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ト看做ス

**第三十一條** 拘留又ハ科料ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ違警罪ト看做ス

**第三十二條** 他ノ法律ニ定メタル罪ニシテ死刑、無期又ハ短期六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ルモノノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

**第三十三條** 死刑、無期又ハ六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス

**第三十四條** 前條ニ記載シタル者及ヒ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ公權ヲ剝奪セラレタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ復權ヲ得タル者ニハ之ノ適用セス

**第三十五條** 六年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ處セラレタル者ト看做ス

法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

六年未滿ノ懲役ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ニ處セラレタルモノト看做ス

六年未滿ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ニ處セラレタルモノト看做ス

**第三十六條** 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者及ヒ舊刑法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其執行ヲ受ケルコトナキニ至ルマテ公權ヲ停止セラレタルモノト看做ス

**第三十七條** 他ノ法律中舊刑法第三十一條又ハ第三十三條ノ規定アル爲メ人ノ資格ニ關シ別段ノ規定ヲ設ケザリシ場合ニ付テハ舊刑法第三十一條及ヒ第三十三條ノ規定ハ人ノ資格ニ關シ刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス

**第三十八條** 刑事訴訟法第八條ヲ左ノ如ク改ム

**第八條** 公訴ノ時效ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因テ完成ス

一 死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年  
 二 無期又ハ長期十年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ十年  
 三 長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年  
 四 長期五年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年  
 五 刑法第百八十五條ノ罪ニ付テハ一年  
 六 拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ六月

第三十九條 刑事訴訟法第六十二條第三號ヲ左ノ如ク改ム

第三十條 區裁判所ノ管轄ニ屬スル罪ト思料シタル事件ニ付テハ證據書類  
 二 意見書ヲ添ヘ之ヲ區裁判所檢事ニ送致ス可シ

第四十條 刑事訴訟法第百二十五條第二號ヲ左ノ如ク改ム

第二 醫師、藥劑師、藥種商、産婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此  
 等ノ職ニ在リシ者及ヒ宗教者クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ  
 在リシ者其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル事實ニシテ默秘ス  
 可キモノニ關スルトキ

第四十一條 刑事訴訟法第百二十六條第一項中「刑法第百八十條ニ從ヒ  
 罰金」ヲ「四十圓以下ノ罰金又ハ科料」ニ改メ同條第二項中「罰金」ヲ  
 「罰金又ハ科料」ニ改ム

同法第百三十八條中「刑法第百七十九條ニ從ヒ罰金」ヲ「四十圓以下ノ

罰金又ハ科料」ニ改ム

同法第百四十四條第一項中「罰金」ヲ「罰金又ハ科料」ニ改ム

第四十二條 刑事訴訟法第百六十七條第一項ヲ左ノ如ク改メ第三項ヲ削  
 ル

被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト思料シタルトキハ公判ニ付  
 スル言渡ヲ爲ス可シ

第四十三條 刑事訴訟法第百七十二條ヲ左ノ如ク改ム

第四百七十二條 檢事ハ免訴又ハ管轄違ノ決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ  
 得

第四十四條 刑事訴訟法第百三十六條中「輕罪、重罪ノ」ヲ削ル

第四十五條 刑事訴訟法第百四十一條ヲ左ノ如ク改ム

第二百四十一條 裁判所ニ於テ輕罪トシテ受理シタル事件ヲ重罪ナリ  
 トスルトキハ其事件ヲ豫審判事ニ送付スル決定ヲ爲スコシ檢事ノ請  
 求アルトキ亦同シ

被告事件豫審ヲ經タルトキハ公判ヲ止メ受命判事ヲシテ其事件ノ取  
 調ヲ爲シ報告ヲ爲サシムヘシ

受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得

第四十六條 刑事訴訟法第百六十四條中「更ニ重罪事件トシテ裁判ス

可キ旨ノ決定ヲ爲シ一ヲ削ル  
第四十七條 刑事訴訟法第三百十七條ニ左ノ一項ヲ加フ  
監獄ニ於テ執行ス可キ二個以上ノ主刑ノ執行ハ其重キモノヲ先ニス  
但特別ノ事由アルトキハ檢事ハ重キ刑ノ執行ヲ停止シ他ノ刑ノ執行  
ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十八條 刑事訴訟法第三百十八條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ  
第三百十八條ノ二 死刑ノ執行ハ檢事及ヒ裁判所書記ノ立會ニテ之ヲ  
爲ス可シ

死刑ノ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルコトヲ得ス但檢事又ハ監獄ノ  
長ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

第三百十八條ノ三 死刑ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失シタルトキハ司  
法大臣ノ命令ニ因リ其痊癒ニ至ルマテ執行ヲ停止ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル婦女懷胎ナルトキハ分娩後司法大臣ノ命令ア  
ルニ非サレハ執行ヲ爲スコトヲ得ス

第四十九條 刑事訴訟法第三百十九條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ  
懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一二該當スルト  
キハ其事故ノ止ムマテ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得  
一 心神喪失ノ状態ニ在ルトキ

二 刑ノ執行ニ因リ生命ヲ保ツコト能ハサル虞アルトキ  
三 受胎後七月以上ナルトキ  
四 分娩後一月ヲ經過セザルトキ

第五十條 刑事訴訟法第三百二十條中「之ヲ爲スコシ」ノ下ニ「刑ノ執行  
ノ停止ニ付キ亦同シ」ヲ加ヘ第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ徵收ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ規定ヲ準用ス  
第五十一條 刑事訴訟法第二十四條、第六十三條、第六十八條、第百  
七十三條及ヒ第七十四條但書ハ之ヲ削ル

第五十二條 刑事訴訟法中復讐及ヒ特赦ニ關スル規定ハ之ヲ削ル  
第五十三條 刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ム可キ  
場合ニ於テハ其犯罪事實ニ付キ最終ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ檢事其  
裁判所ニ請求ヲ爲スコシ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ  
決定ヲ爲スコシ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十四條 刑ノ執行猶豫ハ裁判所ニ於テ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ  
以テ刑ノ言渡ト同時ニ判決ヲ以テ之ヲ言渡スコシ

第五十五條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ハ上訴ニ因リ其效力ヲ失フコトナシ但  
原判決ヲ取消シ又ハ破毀シタル場合ハ此限ニ在ラス

上訴裁判所ハ新ニ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スコトヲ得  
第五十六條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可キ場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ  
受ケタル者ノ所在地又ハ最後ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事其  
裁判所ニ請求ヲ爲スコシ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ  
決定ヲ爲スコシ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十七條 第五十三條及ヒ前條ノ裁判及ヒ抗告ニ付テハ刑事訴訟法ノ  
規定ヲ準用ス

第五十八條 明治三十八年法律第七十號ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受  
ケ仍ホ猶豫ノ期間ヲ經過セサル者ハ刑法ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ  
受ケタルモノト看做ス

第五十九條 明治三十九年法律第五十四號ハ之ヲ廢止ス

第六十條 私訴ハ公訴ニ附帶スルトキハ民事訴訟ノ方式ニ依ラス書面又  
ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第六十一條 贖物犯人ノ手ニ在ルトキハ被害者ノ請求ナシト雖モ之ヲ還  
付スル言渡ヲ爲スコシ

第六十二條 左ニ記載シタルモノヲ以テ公訴ニ關スル訴訟費用トス  
一 豫審、公判ニ付キ呼出シタル證人、鑑定人及ヒ通事ニ給與ス可キ

日當、旅費及ヒ止宿料

二 第六十六條ニ記載シタル費用  
第六十三條 證人、鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ左ノ範圍内ニ於テ豫審判事、  
受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム

一 證人ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金二十錢乃至金五十錢但止宿料ヲ給  
與スル場合ニ於テハ日當ヲ給與セズ

二 鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金三十錢乃至金五圓  
第六十四條 證人、鑑定人及ヒ通事ノ旅費ハ海陸路一里ニ付キ金五錢乃  
至金二十錢ノ範圍内ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム但

通路兩線以上アルトキハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス

前項ニ掲ケタル者ノ止宿料ハ一日ニ付キ金二十錢乃至金一圓ノ範圍内  
ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム但八里以上ノ地ヨリ來

リ滞在スルトキニ非サレハ之ヲ給與セズ

第六十五條 證人、鑑定人及ヒ通事ノ日當、旅費及ヒ止宿料ハ豫審ニ於  
テハ其終結前、公判ニ於テハ其判決前ニ本人ヨリ請求スルニ非サレハ  
之ヲ給與セズ

第六十六條 鑑定、通譯ニ付キ數多ノ時間又ハ特別ノ技能若クハ費用ヲ  
要スルトキハ日當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給與スルコトヲ得

第六十七條 共犯ノ訴訟費用ハ共犯人ノ連帶負擔トス

附則

本法ハ刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
刑法附則其他舊刑法施行ノ爲メ公布シタル法令ハ之ヲ廢止ス

第二編 警察犯處罰令及附屬法規

警察犯處罰令 (明治四十一年九月內務省令第十六號)

第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日以下ノ拘留ニ處ス

一 故ナク人ノ居住者ハ看守セサル邸宅、建造物及船舶内ニ潜伏シタル者

二 密賣淫ヲ爲シ又ハ其ノ媒合者ハ容止ヲ爲シタル者

三 一定ノ住居又ハ生業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者

四 故ナク面會ヲ強請シ又ハ強談威迫ノ行爲ヲ爲シタル者

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日以下ノ拘留又ハ二十圓以下

ノ科料ニ處ス

一 合力、喜捨ヲ強請シ又ハ強テ物品ノ購買ヲ求メタル者

二 乞丐ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者

三 濫ニ寄附ヲ強請シ又ハ收利ノ目的ヲ以テ強テ物品、入場券等ヲ配付シタル者

四 入札ノ妨害ヲ爲シ又ハ共同入札ヲ強請シ若ハ落札人ニ對シ其ノ事業又ハ利益ノ分配者ハ金品ヲ強請シタル者

五 他人ノ業務ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者

六 新聞紙、雜誌其ノ他ノ方法ヲ以テ誇大又ハ虛偽ノ廣告ヲ爲シ不正ノ利ヲ圖リタル者

七 新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ノ購讀又ハ廣告掲載ニ付強テ其ノ申込ヲ求メタル者

八 申込ナキ新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ヲ配付シ又ハ申込ナキ廣告ヲ爲シ其ノ代料ヲ請求シタル者

九 祭事、祝儀又ハ其ノ行列ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者

十 自己占有ノ場所内ニ老幼、不具又ハ疾病ノ爲扶助ヲ要スル者若ハ人ノ死屍、死胎アルコトヲ知リテ速ニ警察官吏ニ申告セサル者

前項ノ死屍、死胎ニ對シ警察官吏ノ指揮ナキニ其ノ現場ヲ變更シタル者

十一 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ喧噪シ、横臥シ又ハ泥酔シ

- 十二 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ濫ニ車馬舟筏其ノ他ノ物件ヲ置キ又ハ交通ノ妨害ト爲ルヘキ行爲ヲ爲シタル者
- 十三 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ危険ノ虞アルトキ點燈其ノ他豫防ノ裝置ヲ爲スノ義務ヲ怠リタル者
- 十四 劇場、寄席其ノ他公衆會同ノ場所ニ於テ會衆ノ妨害ヲ爲シタル者
- 十五 雜沓ノ場所ニ於テ制止ヲ肯セス混雜ヲ増スノ行爲ヲ爲シタル者
- 十六 人ヲ誑惑セシムヘキ流言淫説又ハ虛報ヲ爲シタル者
- 十七 妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱、符呪等ヲ爲シ若ハ守札類ヲ授與シテ人ヲ惑ハシタル者
- 十八 病者ニ對シ禁厭、祈禱、符呪等ヲ爲シ又ハ神符、神水等ヲ與ヘ醫療ヲ妨ケタル者
- 十九 濫ニ催眠術ヲ施シタル者
- 二十 官職、位記、勳爵、學位ヲ詐リ又ハ法令ノ定ムル服飾、徽章ヲ僭用シ若ハ之ニ類似ノモノヲ使用シタル者
- 二十一 官公署ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ其ノ義務アル者ニシテ故ナク申述ヲ肯セサル者

- 二十二 人ノ飲用ニ供スル淨水ヲ汚穢シ又ハ其ノ使用ヲ妨ケ若ハ其ノ水路ニ障礙ヲ爲シタル者
- 二十三 河川、溝渠又ハ下水路ノ疏通ヲ妨ケヘキ行爲ヲ爲シタル者
- 二十四 自己又ハ他人ノ身體ニ刺文シタル者
- 二十五 出入ヲ禁止シタル場所ニ濫ニ出入シタル者
- 二十六 官公署ノ榜示シ若ハ官公署ノ指揮ニ依リ榜示セル禁條ヲ犯シ又ハ其ノ設置ニ係ル榜標ヲ汚瀆シ若ハ撤去シタル者
- 二十七 水火災其ノ他ノ事變ニ際シ制止ヲ肯セスシテ其ノ現場ニ立入り若ハ其ノ場所ヨリ退去セス又ハ官吏ヨリ援助ノ求ヲ受ケタルニ拘ラス傍觀シテ之ニ應セサル者
- 二十八 濫ニ他人ノ標燈又ハ社寺、道路、公園其ノ他ノ公衆用ノ常燈ヲ消シタル者
- 二十九 他人ノ田野、園圃ニ於テ菜果ヲ採摘シ又ハ花卉ヲ採折シタル者
- 三十 使用者ニシテ勞役者ニ對シ故ナク其ノ自由ヲ妨ケ又ハ苛酷ノ取扱ヲ爲シタル者
- 三十一 濫ニ他人ノ身邊ニ立塞リ又ハ追隨シタル者
- 三十二 他人ノ身體、物件又ハ之ニ害ヲ及ホスヘキ場所ニ對シ物件ヲ



- 三十三 拋澆シ又ハ放射シタル者
- 三十四 神祠、佛堂、禮拜所、墓所、碑表、形像其ノ他之ニ類スル物ヲ汚瀆シタル者
- 三十五 人ノ死屍又ハ死胎ヲ隱匿シ又ハ他物ニ紛ハシク擬裝シタル者
- 三十六 一定ノ飲食物ニ他物ヲ混シテ不正ノ利ヲ圖リタル者
- 三十七 不熟ノ果物、腐敗ノ肉類其ノ他健康ヲ害スヘキ飲食物ヲ營利ノ用ニ供シタル者
- 三十八 濫ニ他人ノ繫キタル舟筏、牛馬其ノ他ノ獸類ヲ解放シタル者
- 第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十圓以下ノ科料ニ處ス
- 一 許可ナクシテ人ノ死屍又ハ死胎ヲ解剖シ又ハ之レカ保存ヲ爲シタル者
- 二 公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ袒裼、裸體シ又ハ臀部、股部ヲ露ハシ其ノ他醜態ヲ爲シタル者
- 三 街路ニ於テ屎尿ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者
- 四 濫ニ銃砲ノ發射ヲ爲シ又ハ火藥其ノ他劇發スヘキ物ヲ玩ヒタル者
- 五 家屋其ノ他ノ建造物若ハ引火シ易キ物ノ近傍又ハ山野ニ於テ濫ニ火ヲ焚ク者
- 六 石灰其ノ他自然發火ノ虞アル物ノ取扱ヲ忽ニシタル者

- 七 開業ノ醫師、産婆故ナク病者又ハ妊婦、産婦ノ招キニ應セサル者
- 八 故ナク官公署ノ召喚ニ應セサル者
- 九 炮煮、洗滌、剥皮等ヲ要セス其ノ健食用ニ供スヘキ飲食物ニ覆蓋ヲ設ケス店頭ニ陳列シタル者
- 十 濫ニ禽獸ノ死屍又ハ汚穢物ヲ棄擲シ又ハ之レカ取除ノ義務ヲ怠リタル者
- 十一 監置ニ係ル精神病者ノ監護ヲ怠リ屋外ニ徘徊セシメタル者
- 十二 濫ニ犬其ノ他ノ獸類ヲ吠シ又ハ驚逸セシメタル者
- 十三 狂犬、猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ逸走セシメタル者
- 十四 公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ牛馬其ノ他ノ動物ヲ虐待シタル者
- 十五 濫ニ他人ノ家屋其ノ他ノ工作物ヲ汚瀆シ若ハ之ニ貼紙ヲ爲シ又ハ他人ノ標札、招牌、賣貸家札其ノ他榜標ノ類ヲ汚瀆シ若ハ撤去シタル者
- 十六 橋梁又ハ堤防ヲ損壞スルノ虞アル場所ニ舟筏ヲ繫キタル者
- 十七 通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ此ニ牛馬畜車ヲ牽入レタル者
- 第四條 本令ニ規定シタル違反行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ各本條ニ照シテ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

附 則  
本令、明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス  
附 屬 法 規

刑 法 施 行 前 ニ 公 布 シ タ ル 命 令 ニ 關 ス ル 件

(明治四十一年九月勅令第二百十七號)  
刑 法 施 行 法 中 他 ノ 法 律 ニ 關 ス ル 規 定 ハ 刑 法 施 行 前 ニ 公 布 シ タ ル 命 令 ニ 之  
ヲ 準 用 ス

附 則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス  
明治三十九年勅令第五百五十五號ハ之ヲ廢止ス

決 闘 罪 ニ 關 ス ル 件

(明治二十二年十二月法律第三十四號)

第一條 決闘ヲ挑ミタル者又ハ其挑ニ應シタル者ハ六月以上二年以下ノ  
重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
第二條 決闘ヲ行ヒタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以

上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 決闘ニ依テ人ヲ殺傷シタル者ハ刑法ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第四條 決闘ノ立會ヲ爲シ又ハ立會ヲ爲スコトヲ約シタル者ハ證人介添  
人等何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ  
五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五條 情ヲ知テ決闘ノ場所ヲ貸與シ又ハ供用セシメタル者ハ罰前項ニ同シ

第六條 決闘ノ挑ニ應セサルノ故ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ刑法ニ照シ  
誹毀ノ罪ヲ以テ論ス

第六條 前數條ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ其重キモノハ重キニ從テ處  
斷ス

爆 發 物 取 締 罰 則

(明治十七年十二月太政官布告第三十二號)

第一條 治安ヲ妨ケ又ハ人ノ身體財產ヲ害セントスルノ目的ヲ以テ爆發  
物ヲ使用シタル者及ヒ人ヲシテ之ヲ使用セシメタル者ハ死刑ニ處ス  
第二條 前條ノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用セントスルノ際發覺シタル者ハ  
無期徒刑又ハ有期徒刑ニ處ス  
第三條 第一條ノ目的ヲ以テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造

輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四條 第一條ノ罪ヲ犯サントシテ脅迫教唆煽動ニ止ル者及ヒ共謀ニ止

ル者ハ重懲役ニ處ス

第五條 第一條ニ記載シタル犯罪者ノ爲メ情ヲ知テ爆發物若クハ其使用

ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入販賣讓與寄藏シ及ヒ其約束ヲ爲シタル者ハ

重懲役ニ處ス

第六條 爆發物ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者第一條ニ記載シ

タル犯罪ノ目的ニアラサルコトヲ證明スルコト能ハサル時ハ二年以上

五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七條 爆發物ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官吏ニ告知ス可シ違フ者ハ五

圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 本則ニ記載シタル重罪犯アルコトヲ認知シタル時ハ直ニ警察官

吏若クハ危害ヲ被ムラントスル人ニ告知ス可シ違フ者ハ六月以上五年

以下ノ重禁錮ニ處ス

第九條 本則ニ記載シタル重罪ノ犯人ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメ又ハ其

罪證ヲ湮滅シタル者ハ正犯ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第十條 (刑法施行法第二十二條第二項ヲ以テ廢止)

第十一條 第一條ニ記載シタル犯罪ノ豫備陰謀ヲ爲シタル者ト雖モ未タ

其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シ因テ危害ヲ爲スニ至ラサル時ハ本  
刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス第五條ニ記載シタル犯罪者モ  
亦同シ

第十二條 本則ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ仍ホ重キ者ハ重キニ從テ處  
斷ス

### 外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證券偽造

#### 變造及模造ニ關スル件

(明治三十八年三月法律第六十六號)

第一條 流通セシムルノ目的ヲ以テ外國ニ於テノ流通スル金銀貨紙

幣銀行券帝國官府發行ノ證券ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ重懲役

又ハ輕懲役ニ處ス

金銀貨以外ノ硬貨ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ輕懲役又ハ二年以上五

年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二條 流通セシムルノ目的ヲ以テ偽造又ハ變造ニ係ル前條ニ記載シタ

物ヲ帝國若ハ外國ニ輸入シタル者ハ前條ノ例ニ同シ

第三條 情ヲ知テ偽造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物ヲ行使シ若

ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル者ハ輕懲役又ハ六月以上五年

以下ノ重禁錮ニ處ス  
取得シタル後其ノ偽造又ハ變造ナルコトヲ知テ行使シ若ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授付シタル者ハ其ノ名價三倍以下ノ罰金ニ處ス但シ二圓以下ニ降スコトヲ得ス

第四條 第一條ノ偽造又ハ變造ノ用ニ供シ若ハ供セシムルノ目的ヲ以テ器械若ハ原料ヲ製造シ、授受シ若ハ準備シ又ハ帝國若ハ外國ニ輸入シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第五條 販賣スルノ目的ヲ以テ第一條ニ記載シタル物ニ紛ハシキ外觀ヲ有スル物ヲ製造シ又ハ帝國若ハ外國ニ輸入シタル者ハ二年以下ノ重禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 前數條ニ規定シタル輕罪ヲ犯サムトシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第七條 本法ニ規定シタル罪ヲ犯シ禁錮ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第八條 本法ニ規定シタル罪ヲ犯シタル者偽造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物ノ未タ行使セラレサル前又ハ第五條ニ記載シタル物ノ未タ授付セラレサル前ニ於テ官ニ自首シタルトキハ主刑ヲ免除スルコトヲ得

第九條 本法ニ規定シタル罪ヲ犯シ外國ニ於テ確定裁判ヲ經タル者ト雖更ニ之ヲ處罰スルコトヲ妨ケス但シ犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ刑ノ執行ヲ減免スルコトヲ得

第十條 偽造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物及第五條ニ記載シタル物ハ裁判ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス行政ノ處分ヲ以テ之ヲ官沒ス

第十一條 偽造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物及第五條ニ記載シタル物ニハ明治九年布告第五十七號ヲ準用ス

附則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年勅令第百七十七號ハ之ヲ廢止ス

○外務省令 明治三十八年三月第一號

明治三十八年法律第六十六號第十條ノ官沒ハ領事官ニ於テ命令書ヲ交付シテ之ヲ爲スヘシ

○內務省令 明治三十八年三月第二號

明治三十八年法律第六十六號第十條ノ官沒ハ警察署長若ハ警察分署長ニ於テ命令書ヲ交付シテ之ヲ爲スヘシ

通貨及證券模造取締法

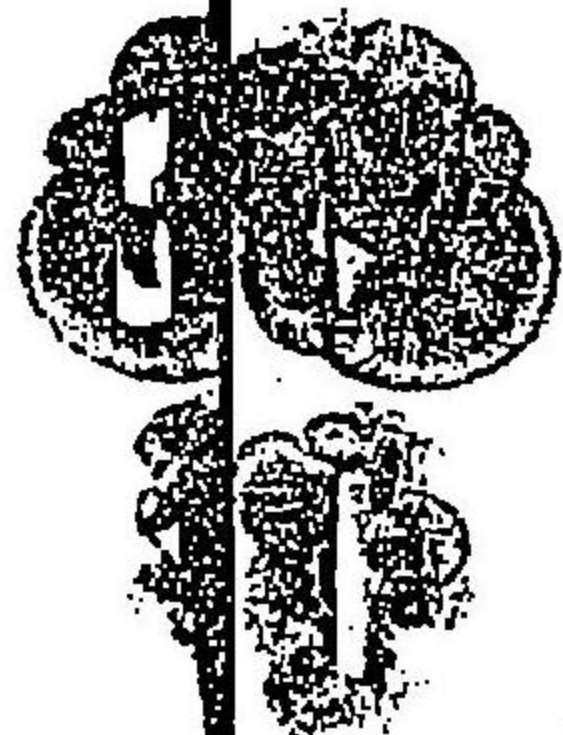
(明治二十八年四月法律第二十八號)

- 第一條 貨幣、政府發行紙幣、銀行紙幣、兌換銀行券、國債證券及地方債證券ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ス
- 第二條 前條ニ違犯シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 第三條 第一條ニ掲ケタル物件ハ刑法ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ破毀スヘシ
- 第四條 第一條ニ掲ケタル物件ニハ明治九年布告第五十七號ヲ適用ス

紙幣類似證券取締法

(明治二十九年五月法律第五十一號)

- 第一條 一樣ノ形式ヲ具ヘ箇々ノ取引ニ基カスシテ金額ヲ定メ多數ニ發行シタル證券ニシテ紙幣類似ノ作用ヲ爲スモノト認ムルトキハ主務大臣ニ於テ其ノ發行及流通ヲ禁止スルコトヲ得



前項ノ規定ハ一樣ノ價格ヲ表示シテ物品ノ給付ヲ約束スル證券ニ付之ヲ適用ス

第二條 前條ニ依リ證券ノ發行及流通ヲ禁止シタルトキハ主務大臣ハ直ニ其ノ旨ヲ公告ス  
禁止ノ公告後ニ發行シ又ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル證券ハ無効トス

第三條 禁止ニ違反シテ證券ヲ發行シ又ハ其ノ證券ヲ授受シタル者ハ一年以下ノ重禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ證券ヲ沒收ス  
禁止ニ違反シテ證券ヲ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第四條 禁止ノ公告後ニ發行シ又ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル證券ハ裁判ニ依リ沒收スル場合ヲ除クノ外何人ノ所有ヲ問ハス行政處分ヲ以テ之ヲ官沒ス

懸賞又ハ富籤類似其ノ他射倖方法提供ノ行爲

取締方 (明治三十三年五月内務省令第二十六號)

懸賞又ハ富籤類似其ノ他射倖ノ方法ヲ用井シコトヲ提供スルノ行爲ニシ

テ公安又ハ風俗ヲ害スル虞アリト認ムルモノハ廳府縣長官(警察官ニ限ラズ)ニ於テ之ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得(三十七年內務省令第二號ヲ以テ本令中改正)  
前項禁止又ハ制限ヲ命セラレタル場合ニ於テ其ノ命令ニ違背シタル者及情ヲ知リテ之ヲ取引シタル者ハ二十五日以下ノ重禁錮又ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス  
本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ施行ス

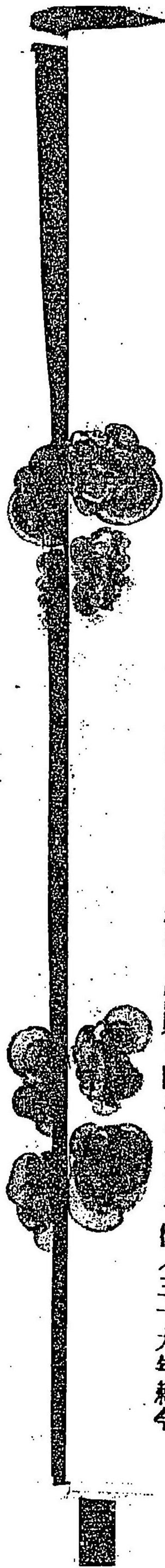
### 命令ノ條項違犯ニ關スル罰則ノ件

(明治二十三年九月法律第八十四號)  
命令ノ條項ニ違犯スル者ハ各其ノ命令ニ規定スル所ニ從ヒ二百圓以内ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

### 閣令省令廳令府縣令及警察令ニ關スル罰則

(明治二十三年九月勅令第二百八號)

第一條 內閣總理大臣及各省大臣ハ法律ヲ以テ特ニ規定シタル場合ヲ除クノ外其ノ發スル所ノ閣令又ハ省令三百圓以内ノ罰金若ハ科料又ハ三月以下ノ懲役、禁錮若ハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得(三十九年勅令)



第二百五十八號四十一一年同第二百四十五號ヲ以テ本條中改正)  
第二條 地方長官及警視總監ハ其ノ發スル所ノ命令ニ五十圓以内ノ罰金若ハ科料又ハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得(四十一年勅令第二百四十五號ヲ以テ本條中改正)

明治四十二年十二月六日印刷  
明治四十二年十二月十日發行

校正  
嚴密

編輯者

龜山小六

發行者

大阪市東區北久寶寺町四丁目八番地  
千葉德松

製版者

大阪市西區阿波生三番町一番地  
堀越幸

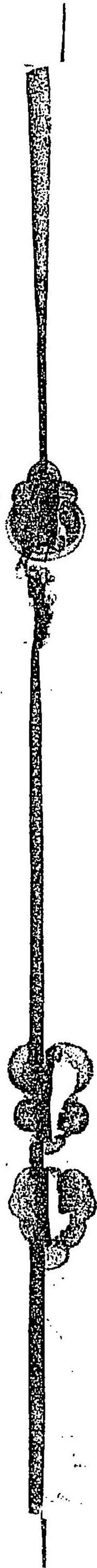
印刷者

大阪市南區安堂寺町三丁目十六番地  
山田元吉

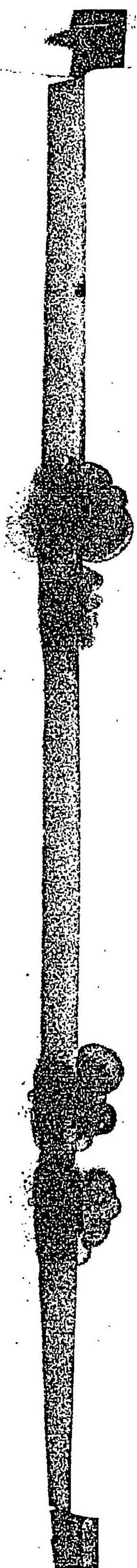
發行所

大阪市東區  
北久寶寺町四丁目

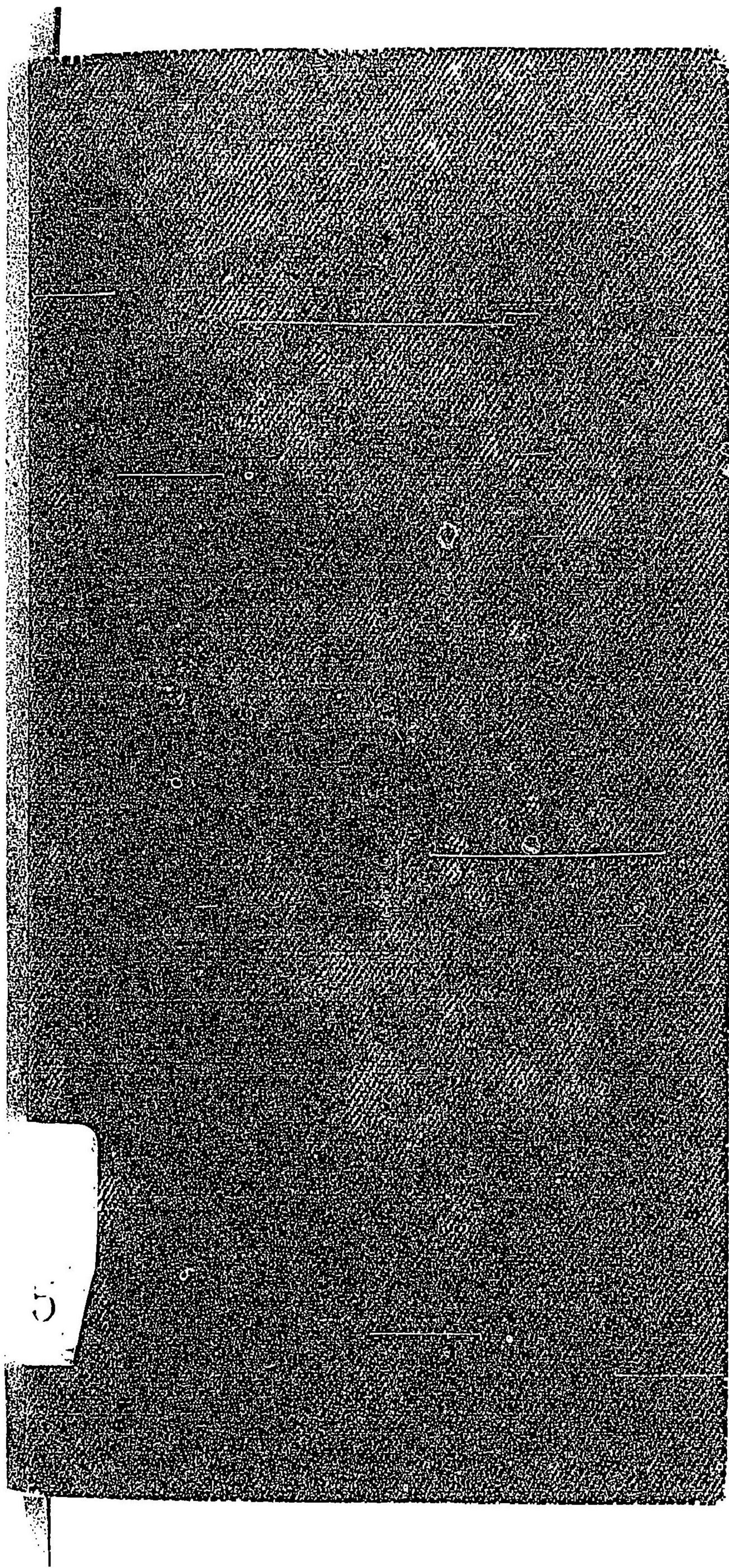
久榮堂書店



261
156









035624-000-2

CZ-711-0117

刑法及附属法規

久荣堂

M42

BBP-0176

